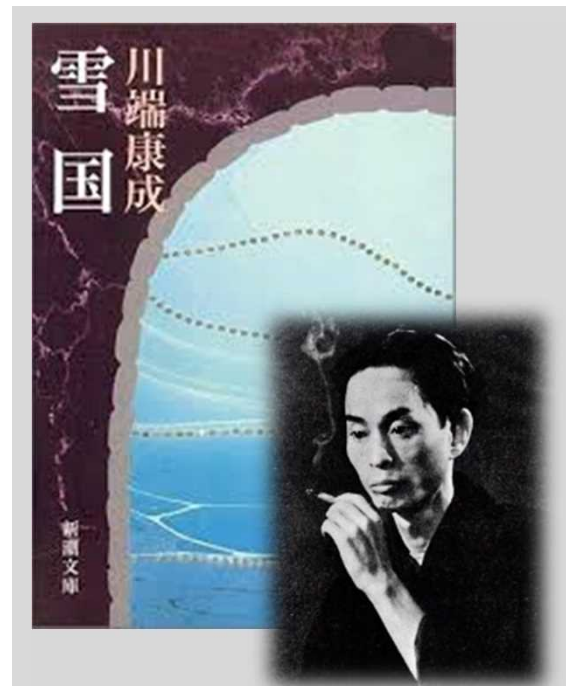


■ 大源太川第1号砂防堰堤建設当時の流域状況

- 大源太川第1号砂防堰堤が位置する大源太川は、名峰谷川岳に連なる大源太山（1598m）に源を発し、湯沢町において魚野川に合流しています。
- 流域の大部分は風化により脆弱化する花崗岩類からなり、さらに極めて急峻な地形を呈していたことから、豪雨のたびに大量の土砂が流出し、下流域に大災害をもたらしていました。
- 昭和6年、清水トンネルの完成を持って上越線が全線開通したことにより、関東地方と新潟の移動利便性が格段に向上しました（東京-新潟間の所要時間が約4時間短縮）。
- 交通網の整備等に伴って観光・スキー場開発が活発となり、魚沼地方の地域基盤が形成されました。



水源域の荒廃状況



昭和10年に川端康成の小説『雪国』が発表されて以来、湯沢の地は温泉とスキーに加え、小説『雪国』の舞台としても脚光をあびる



昭和10年頃、スキー客であふれる越後湯沢駅



清水トンネル



大源太川第1号砂防堰堤位置図